

論壇

トヨタ財団の支援を得て、現在、われわれは自治体関係者、大学教授、企業家、華僑ら10数人で先島諸島と東台湾の交流の歴史研究ならびに交流促進のためにプロジェクトを行っている。

石垣、宮古には台湾からクルーズ船が入り、観光客も見かけるようになってい

る。また、与那国では先日、花蓮との間で飛行機の直行便が6往復し、花蓮市長も積極的に交流を推進している。

昨年未から花蓮、石垣、宮古、与那国

を巡り、関係者や台湾人観光客に話を聞いたが、交流促進のための課題もまた多いと感じた。2点指摘しておきたい。

1つ目が日本国内での八重山の観光成功体験が拓く問題である。石垣は本土から多くの観光客が訪れており、観光地の中でも成功した地域と言えよう。

だが、その成功が逆に台湾人観光客の不満を招く原因ともなっている。台湾人観光客が八重山そばを食へずにスーパーで刺し身やすしを食べているという不満を聞くことがある。それは彼らが「八重山」ではなく、「日本」を買いに来ているからだ。

ものを買うものではない。パンフレットやテレビ、旅行雑誌で知った既知のものを買い、「その通り、おいしかった、きれいだった」と案

六月ほど台湾にいたが、現地で八重山の情報に触れることは皆無である。したがって、彼らが「八重山」ではなく、「日本」を買いに来ることは当然である。八重山の情報に触れている日本人観光客に

に北海道の海鮮料理(沖繩まで来て、なぜと思うのは日本に住む者の感覚である)を提供するものがあるのも納得できる。台湾の人々にとって沖繩が一番近く、安く行ける「日本」なのである。

その名前から時に「島なのですか」と聞かれることがある。台湾の人々は日本に関心があるが、地理や特色まで認識している人は限られている。「八重山」を売り込もうと思うなら、台湾でもっと宣伝する必要があ

る。さらに言えば、おのおのに特徴的な観光資源を持つこれらの地域をあわせて宣伝すれば、多種多様な嗜好(しこう)を持った台湾人観光客を引きつけられるはずである。多くの観光客の発掘は、飛行機や船の定期便化にもつながるだろう。

だが、その宣伝も容易ではない。台湾で新商品を開発したビルメーカーの知人の話では、商品を認知させるために1億円の宣伝費をかけたという。1自治体で1億円の宣伝費をかけることは難しいが、散発的な宣伝にあっては意味はさほどない。ならば、石垣、竹富、与那国等が一体となって宣伝

台湾へのPRは広域で

「花蓮チャーター」で考える

上水流 久彦

テレビや雑誌を通じての日本本土の情報である。北海道の海鮮料理であり、全国のラーメンやすしの名店であり、東京デイスニーカーなどどの有名な行楽地である。

対するのと同じ姿勢で臨んでも、台湾人観光客の満足感を得ることは難しい。与那国に来た台湾人観光客からは日本的なお土産が欲しいという声があった。那覇に行くクルーズ船のオプション

2点目は、広域的な取り組みの必要性である。残念ながら、石垣や与那国と尋ねて、すぐに場所や地域の特徴が思い浮かぶ人は台湾には多くない。被爆地として世界的に知られている広島や

だが、その宣伝も容易ではない。台湾で新商品を開発したビルメーカーの知人の話では、商品を認知させるために1億円の宣伝費をかけたという。1自治体で1億円の宣伝費をかけることは難しいが、散発的な宣伝にあっては意味はさほどない。ならば、石垣、竹富、与那国等が一体となって宣伝

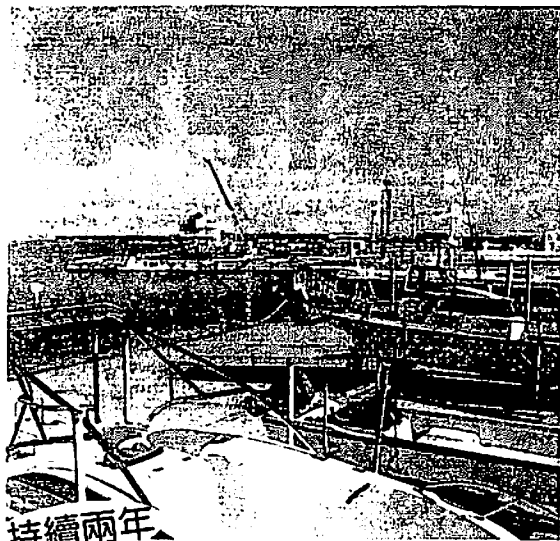
するしかない。さらに言えば、おのおのに特徴的な観光資源を持つこれらの地域をあわせて宣伝すれば、多種多様な嗜好(しこう)を持った台湾人観光客を引きつけられるはずである。多くの観光客の発掘は、飛行機や船の定期便化にもつながるだろう。

かいた台湾の人と会うってその感じの良さに、抱いていた印象が変わったという。実際に接してみれば、自分たちとほぼ変わらぬ等身大の人たちだったというわけである。このような日常的な接触が厚みのある交流を生む力となる。交流機会の提供も今、関係者が取り組むべきことの1つである。

上水流久彦(かみづる・ひさひこ) 県立広島大学地域連携センター助教。文化人類学。著書に「台湾漢民族のネットワーク構築の原理」など。トヨタ財団研究助成特定課題「海の東アジアが醸成する文化」プロジェクトリーダー。1968年生。



花蓮市公所機要秘書柯承重(右)向日本廣島大學教授上水瀨久彥(左)分析日本與那國町及花蓮市經濟發展的方向。記者魯如宇/攝



持續兩年

與那國町相納港位在小島的北面，專供漁船及遊艇進出，美軍船艦在二〇〇七年八月還在相納港停泊及物價補貼，曾引起當地住民團體的連署反對。記者魯如宇/攝

針對東台灣與日本西南離島 做深入了解分析 並提出振興方案

日教授來花研究國境交流

記者魯如宇/報導

就在花蓮航往日本與那國町的包船即將首航之際，來自日本廣島大學地域通中心教授的教授上水瀨久彥接受日本「TOYOTA」財團委託，在花蓮進行東台灣與日本西南離島國境交流的研究工作，這項計劃將持續兩年，「TOYOTA」財團希望有助於振興日本離島的觀光與經濟。

這支國境交流研究團隊囊括了日本的產官學界及媒體工作者，台灣方面則有中央研究院民族學研究所助理黃智慧加入。「TOYOTA」財團以兩年四百萬日幣(約一百四十七萬新台幣)的經費補助，請這支研究團隊針對東台灣縣市與日本西南離島之間的國境交流，做深入了解並分析交流之優劣，且提出振興方案。

上水瀨久彥負責研究的對象是花蓮市的日本姊妹市與那國町，二〇〇七年八月，他曾自費到台灣做過調查工作，並多次出入與那國町、石垣島及宮古島做田野調查，評估離島地區振興經濟的多個方案。

詳細記錄海運首航

花蓮市包船首航將於本月九日上午八點在花蓮港啟航，上水瀨久彥將提前兩天從桃園搭機到那霸市，再轉機經石垣島前往與那國町，針對海運首航做詳盡的研究紀錄。

曾上街頭隨機查訪

為確切得知相關單位對國境交流的作法與意見，上水瀨久彥停留花蓮期間，除在街頭隨機查訪民眾對與那國町的熟悉度外，也拜會了花蓮市長蔡啟芳，昨天則是分別拜訪市公所機要秘書柯承重、顧問羅子章等人。

與那國町重視花運

他表示，與那國町非常重視與花蓮的交流往來，且期待觀光交流能密集式互動，進而推廣輕貿的發展，不過，受限於交通的不便，一切還只能「紙上談兵」。

啟航作業塵埃落定

去年九月，柯承重代表花蓮市公所到與那國町參加「國境交流推進協議會」，返台的第一個任務就是著手進行兩地海運直航的工作，歷經過三個月時間的奔波，啟航作業終於塵埃落定。

柯承重認為，日本西南地區的離島若要推動觀光經濟發展，應該串聯整合，他以宮古島、石垣島及與那國島為例，建議成立「聯合採購中心」，透過與那國町向花蓮市下訂單。

柯承重強調，與那國周邊島嶼距離最近的沖繩本島那霸市也要五百公里左右，但與花蓮市卻只相距一百一十公里，以地域關係而言，從花蓮採購生鮮貨品絕對比到那霸還要來得新鮮，且人兼採購的好處包括降低成本，有讓價空間，但前提是，兩地交通必須維持暢通，才有推廣輕貿發展的可能性。

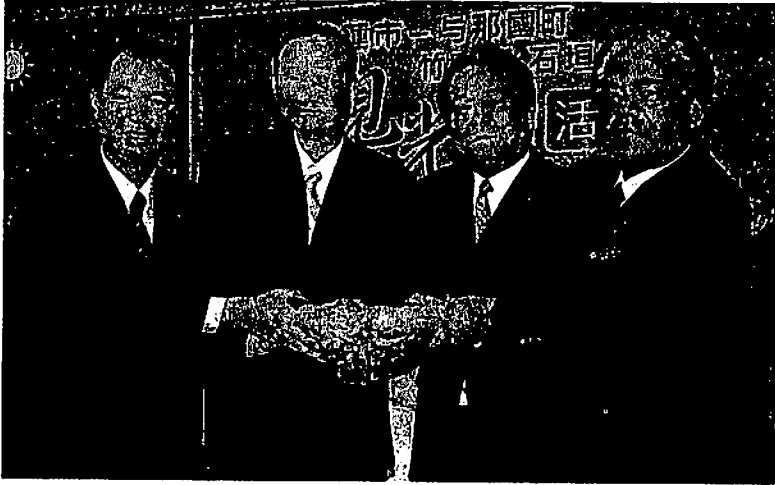
對於柯承重的分析，上水瀨久彥也表示認同，他說，「TOYOTA」財團提供經費給學術研究的最終目的，就是希望能幫助較弱勢的町村，讓他們在中央政府預算補助逐年縮編下，能透過學術研究建議找到振興經濟的方向。

「国境交流推進共同宣言」に調印

台湾東部地域と3市町長

政府外交部出席 直行ルート定期化などを目指す

【台湾・花蓮市】3市町長(花蓮市の蔡啓瑤(ツァイ・チン)市長は15日、花蓮を離れて台湾東部地域と八里山の間で、直行ルートの定期化などを自指すことを盛り込んだ「国境交流推進共同宣言」に調印した。台湾東部と八里山の自治体がこれまで「対」で培ってきた交流を隣境間の結び付きに拡大し、観光や文化、経済の交流を強化するなどをめざったもので、推進体制の構築が今後の課題となる。



「国境交流推進共同宣言」に調印後、握手する川淵栄良竹富町長、蔡啓瑤花蓮市長、外間守吉与那国町長、大浜良照石垣市長(左から、現地時間の15日午後3時50分ごろ、花蓮市内のホテルで)

真実は両地域の関係が「国境が隔てる地域だが、家族のような親密な付き合いを続けている」として、「台湾東部・沖期八里山間観光経済圏」の形成を推進するために「国境交流推進拡大合同会議」を年一回、両地で交互に開催し、観光・文化・経済産業の交流推進について意見交換する▽直航交通ルートの実現と掘起。手始めに、修学旅行やスポーツの交流、産業視察のツアーなどの実施に努めることを盛り込んだ。

同日宣言を調印した共同観光生活圏会議は15日午後、花蓮市内で開かれ、台湾政府外交部(外務省に相当)や台東県政府、蘇澳鎮、花蓮の農協や漁協、台湾の運輸会社の関係者合わせて約80人が出席した。蔡市長は「両地域の間で実質的な交流ができておらずに懸念が、改めて強調し、直行交通ルートの確保が急務との考えを示した。

4月16日 木曜日
2009年(平成21年)

発行所
八重山毎日新聞

両地域の交流のきっかけを作った外間守吉与那国町長は「与那国は打撃したが、(国境間の交流を)キキヤバが与えられる大浜良照石垣市長は「両地域が交流するよう構想は、経済交流圏の構築につながる」とそれぞれ期待を語った。

初訪台となった川淵栄良竹富町長は「八里山と台湾の交流が深まれば、両地域が連携する」とコメント。外間町長から与那国との交流について勧められると「願念に燃焼してできるならば勝算があるようにハズレを風入す」と述べた。

八里山では、石垣市が台湾東部の蘇澳鎮と花蓮縣、与那国町が花蓮市との間で友好関係を結んでいる。与那国町は「自立ビジョン」を策定した2005年3月以降、独自に花蓮や台湾との結び付きを強めてきたが、「国境レベルで交流する必要がある」と石垣市と竹富町に提起していた。